

月刊 あったかいご通信

月刊「あったかいご通信」を発行する土地活用研究会は、地域密着の建設会社が福祉施設の開業をサポートする全国50社の国内最大級のネットワークです。毎月、業界の最新情報や成功事例をお届けします。業界全般の最新情報や経営のコツ、利用者募集や人材マネジメントなどリクエストも大歓迎です！

※記事引用 ・厚生労働省 ・国土交通省 ・㈱官公通信社 ・高齢者住宅新聞社 ・福祉新聞 ・日本経済新聞 他

令和元年12月号

【発行元】

岐阜県福祉のまちづくり推進協議会
〒501-3246

関市緑ヶ丘2-5-78

TEL : 0120-337-301

FAX : 0575-24-5733

障害者が生産に携わった食品 示す「ノウフクJAS」



障害者雇用促進法の制定にともない、現在、流通している食品の生産に障がい者が携わることが増えてきたことを背景に、障害者が生産に携わった食品であることを示す「ノウフクJAS」の第1号が1日、誕生した。

食品の品質や生産行程に関するJASの認証を受けてマークを表示することで、消費者がより安心して購入できるようになる。障害者の工賃向上や農業の人手不足解消など、農福連携を後押しすることが期待される。

ノウフクJASは、障害者が野菜の栽培や牛の飼育、魚の水揚げなどの生産行程に携わった「生鮮食品」と、これらを1種類以上使った「加工食品」などを対象とする。

認証を受けるには登録認証機関（一般社団法人日本基金など）に申請する。書類審査、実地検査を経て、1カ月半ほどで結果が出る。費用は各約15万円で、両方を申請すると割引がある。

認証基準には、障害者が作業しやすい環境をつくること、作業を記録しておくことなどがある。認証後も1年に1回は検査を受けなければならない。

認証第1号となったのは、(株)ウィズファーム(長野県)、(株)ひだまり(同)、さんさん山城(京都府)、NPO法人すまいる(愛知県)。

4者は同日、農林水産省で末松広行・農水事務次官と懇談した。末松事務次官は「マークの意味することがきちんと理解され、商品が高く売れるよう努力していくことが大切」と話した。

さんさん山城(社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会)は、地域特産の宇治茶、田辺なす、万願寺とうがらし、えび芋などの生産、加工、販売を行っており、「生鮮食品」と「加工食品」の認証を受けた。新免修施設長は「審査の過程で作業をマニュアル化することで業務を整理できた。費用はかかるが、それ以上の効果がある」と今後に期待する。